



平成 21 年 3 月 30 日

報道機関 各位

(「家族時間」担当) 総合政策部政策推進課 山川

TEL 0776-20-0226

(アンケート調査担当) 総務部政策統計課 谷口、加藤

TEL 0776-20-0271

*お問い合わせは、政策推進課 山川へお願いします。

「家族時間」に関するアンケート調査結果の概要について

この度、みだしの調査を実施しましたので、その結果の概要をお知らせします。

家族時間アンケート結果の概要

1 調査目的

県では、子育て家庭の「暮らしの質」を向上させるため、「**子育て中の家族が、話し合い、楽しみあい、協力し合うため、ともに過ごす時間**」を「**家族時間**」と定義し、これを伸ばす運動を展開している。

この運動推進のため、県内の「家族時間」の状況や県民のニーズを把握し、今後の施策の立案・実施に活かすことを目的として、県内の児童・生徒およびその保護者に対するアンケート調査を行った。

2 調査対象 (平成 20 年 11 月 調査実施)

(1) 児童・生徒向けアンケート

県内公立の小学2年生 (約 7,800 人の内 1,257 人)

小学5年生 (約 8,000 人の内 1,252 人)

中学2年生 (約 8,300 人の内 1,226 人) 計 3,735 人

(2) 保護者向けアンケート

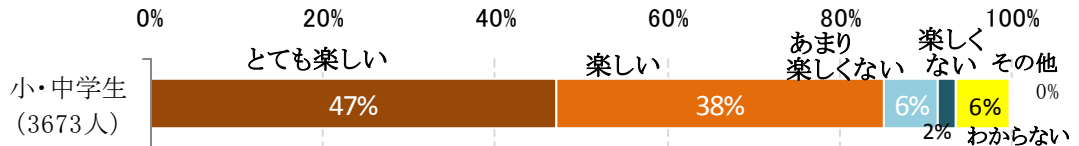
(1) の児童・生徒の保護者 (計 3,735 人)

3 調査結果のポイント

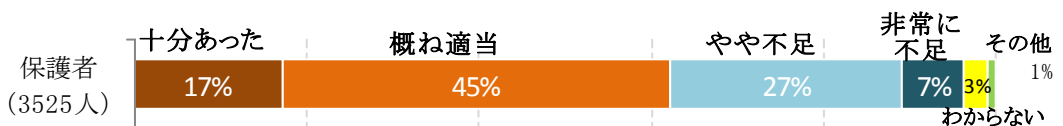
(1) 家族時間

小・中学生の 85%が、「家族との生活は楽しい」と回答
 保護者の 62%が、「家族との時間は充実している」と回答

(問) 家族との生活はどうですか。



(問) 「家族時間」の「内容の充実度」はどれに当てはまりますか。



■ 家族時間

- ・(平日) 母親の家族時間は4時間1分、父親は1時間52分。
- ・(平日) 子どもとふれあう時間のなかった父親は、8人に1人(約13%)。
- ・高学年になるほど、家族時間は減少傾向。

■ 家族時間の不足している理由

- ・いずれの学年も「保護者の仕事が忙しい」が最多。
- ・高学年になるほど、「子どもの学校、学校以外の活動が忙しい」が増加。

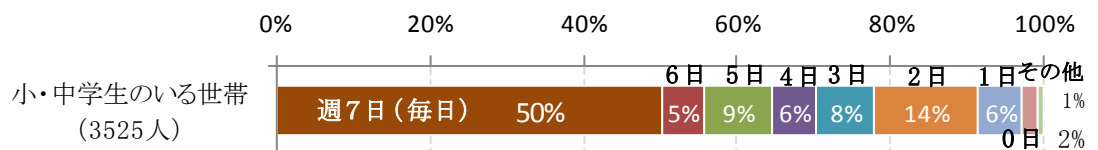
■ 行政への要望

- ・いずれの学年も「企業への働きかけ(有給休暇、育児休暇の取得促進)」が最多。
- ・次いで、「家族で利用できる施設などの整備」が多い。

(2) お子さんとそろって夕食をとる頻度

50%の世帯が、「毎日、お子さんと保護者がそろって夕食をとる」と回答

(問) お子さんと保護者の皆さんと一緒にそろって夕食をとられる機会は、だいたい週に何日ありますか。

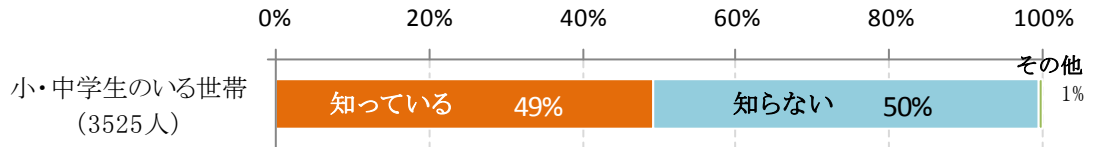


- ・1週間当たり平均5.1日。

(3) 放課後活動定休日について

「放課後活動定休日」の認知度は約5割

(問) 毎月第3日曜日（家庭の日）の翌日の月曜日を「放課後活動定休日」に指定していますが、ご存じですか。



■ 父母の職場における実施（定時退社、早期帰宅の呼びかけ）状況

・呼びかけのあった職場は4%で、ほとんどが「なかった」と回答。

(4) 「家族時間」を伸ばすことについて

97%の世帯が「大切」と回答

(問) あなたのご家庭において「家族時間」を伸ばすことについて、どう思われますか。

